令和５年度　国語科　研究のまとめ

中西果織・吉岡大泰・岡本恵里香

１．研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体

（１）小学校国語　３年「モチモチの木」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業構想力	○友だちと対話しながら考えたり、多面的な見方、考え方を感じたりすることができた。	・児童の一次感想から学習課題を設定し、配付したり掲示したりして共有した。	・児童主体での学習 ・児童同士のやりとり
	○叙述を基に、登場人物の気持ちや人物像、「モチモチの木」に対する見方などを考えて、まとめることができた。	・課題を解決するために「登場人物マップ」を作成する活動を取り入れることで、物語を読む必然性をもたせた。	・しつらえと言語活動 ・単元を通しての課題
授業実践力	○叙述を基に、読み取ったことや考えたことを話し合い、友だちの考えを踏まえて、自分の考えをまとめることができた。 ●生活経験等とうまくつなげることができず、児童に読みの深まりを十分に感じさせることができなかった。	・児童の発言を整理したり、児童の反応や話し合いの内容に合わせて適したタイミングで児童の発言を取り上げたり、発問したりした。	・児童の反応や思考の予想 ・ファシリテート ・構造的板書
授業分析・評価力	●本時における児童の読みの深まりや変容を十分に把握することができない部分があった。	・発言の内容を板書で色分けして示したり、「登場人物マップ」を評価したりすることで、本時や単元での変容を見取っていった。	・ルーブリックの作成

（２）小学校国語　４年「手袋を買いに」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業構想力	○最後の一文に着目した発言や前単元の物語と比べる発言があり、本単元の学習にスムーズに入ることができた。	・同じ作者が書いた別の物語を前単元で学習することで、作品に共通するものへの理解を深め、物語を読む構えを作った。	・前単元とのつながり

	○読み聞かせを通して、物語に深く入ることができた。一次感想の文量が増え、多くの感想を書いていた。	・単元導入の時に絵本と電子黒板を用いた読み聞かせを行い、物語の世界観を感じられるようにした。	・単元への導入
授業 実践力	○書くことが苦手な児童が、自分の考えを多く表出させていた。	・物語の中に自分を登場させる創作活動を行った。	・思考の深まり
	○友達が創作した作品をもとに、本時の学習課題題を作ることができた。	・児童が創作した作品をもとに学習課題を設定することで、児童の学ぶ意欲を引き出した。	・主体的な学習
授業 分析・ 評価力	●言葉を「まとめる」ことはできていたが、内容に個人差がみられ、個人内での質的向上があまりみられなかった。	・つけたい「言葉の力」を明確にし、言葉を「まとめる」学習活動を段階的に設定した。	・次時へのつながり

（3）中学校国語　2年「走れメロス」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○メロスに対して一義的に評価するのではなく、多角的にその人物をみつめる記述が全員にあった。	・「もしも転生して○○（登場人物）になったら、どう思うか」という問によって、初読のイメージから脱却した。	・「参加」する文学体験
	●生徒一人一の多様な読みや解釈があり、中には可能性はあるが飛躍した解釈もあった。	・グループで一つの意見にまとめるのではなく、タブレットで個人の意見を表出させた。	・主体的な読み
授業 実践力	○ゆっくり学ぶ生徒も十分に意見の表出ができていた。また、生徒が本当に話したいことを自然発生的に交流していた。	・思考を中断させないために、グループ交流や一斉での指示を極力減らし、「個」の時間を多く設け、教師がリードしないようにした。	・指導の個別化
	○タブレットで他の人の疑問点に回答する際に、普段は意見を交流できない人にも自己の考え伝えることができた。	・同じ学習活動、同じパターンの入力シートを使用することと、タブレットを日常的に使って慣れること。	・「課題設定学習」と「課題選択学習」 ・ICT による「学習の個性化」

授業 分析・ 評価力	○生徒同士の交流で自分の考えを深めていた。 ●「これで合っていますか。」と教師に確認する生徒が僅かだがいた。	タブレットでの入力は生徒同士の即時共有ができたが、教師がワークシートのフィードバックを個別に、素早くできるようにする。	・教える授業と育てる授業

２．研究についての考察

今年度の研究では、国語科本来の魅力に迫るための教師の資質能力を表１に示した。その中で、重点的に取り組んだ部分と再検討したことをもとに加筆した部分を下線部で示している。

表１　国語科本来の魅力に迫るための教師の資質能力

資質能力	国語科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	**・つけたい「言葉の力」を明確にし、学習者が主体的に学習課題を設定することを教員の立場から適切に支援すること。** ・一単元　単元間　一年間　6 年間　3 年間　9 年間の学びを見通し、単元におけるつけたい「言葉の力」を焦点化すること。 ・つけたい「言葉の力」に適した教材を見出し、作品が作られた背景や作品のもつテーマ、文章表現の特徴など、教材のもつ特性を的確に把握すること **・学習者の発達段階を考慮しながら他者と関わり自分と向き合う単元を学習者とともに創造すること。**
授業実践力	・児童の主体性を引き出す発問や手立てにより学習者の気づきや問いを発展的、有機的につなげていくこと。 ・豊かな言葉が行き交う学びを支える対話の場を作ること。
授業分析・評価力	・学習者の発言や自己表現したものから学習者の変容を見取り、授業にいかす力。 **・学習者の変容を見取るための適切な方法を定め、学習の記録を児童と共有して次時に活かす力。**

国語科分科会で出た意見や指導助言を踏まえて、新たに「授業分析・評価力」に「**学習者の変容を見取るための適切な方法を定め、学習の記録を児童・生徒と共有して次時に活かす力。**」を加えた。研究テーマにある自分と向き合い豊かに言葉を紡ぎ出す学習者の姿を一次感想と二次感想を書くことのよって表出することを試みた。しかし、参会者の意見では、この一時間の授業の中でどのような学習者の変容があったのか、教師がどんな児童の姿を目指して授業をしていたのかという話題が多数でており、単元全体での変容を見取るだけでなく、一時間の中での学習者の変容を明らかにすることも必要ではないかと考えた。また、指導助言の中で、学習の記録を残しておくことの必要性についても触れられた。さらに、その見取ったことを学習者と共有する工夫についても述べられた。このことにより、長期的な視点での授業分析・評価だけでなく、一時間の中での変容の見取りを具体的に定めることも視野に入れたい。

以上のことから、本研究を通した成果と課題は以下の通りである。

成果	課題
・つけたい「言葉の力」を明確にした授業構想により、学習者が主体的に学習課題を設定する授業を構想することができた。 ・各発達段階を考慮した単元構想ができた。また、自分と向き合う単元を新たに創ることができた。	・長期的な視点だけでなく、一時間の授業の中で児童の変容を見取る視点や方法を検討する必要がある。 ・学習者に変容の自覚化を図るための新たな手立てが必要である。